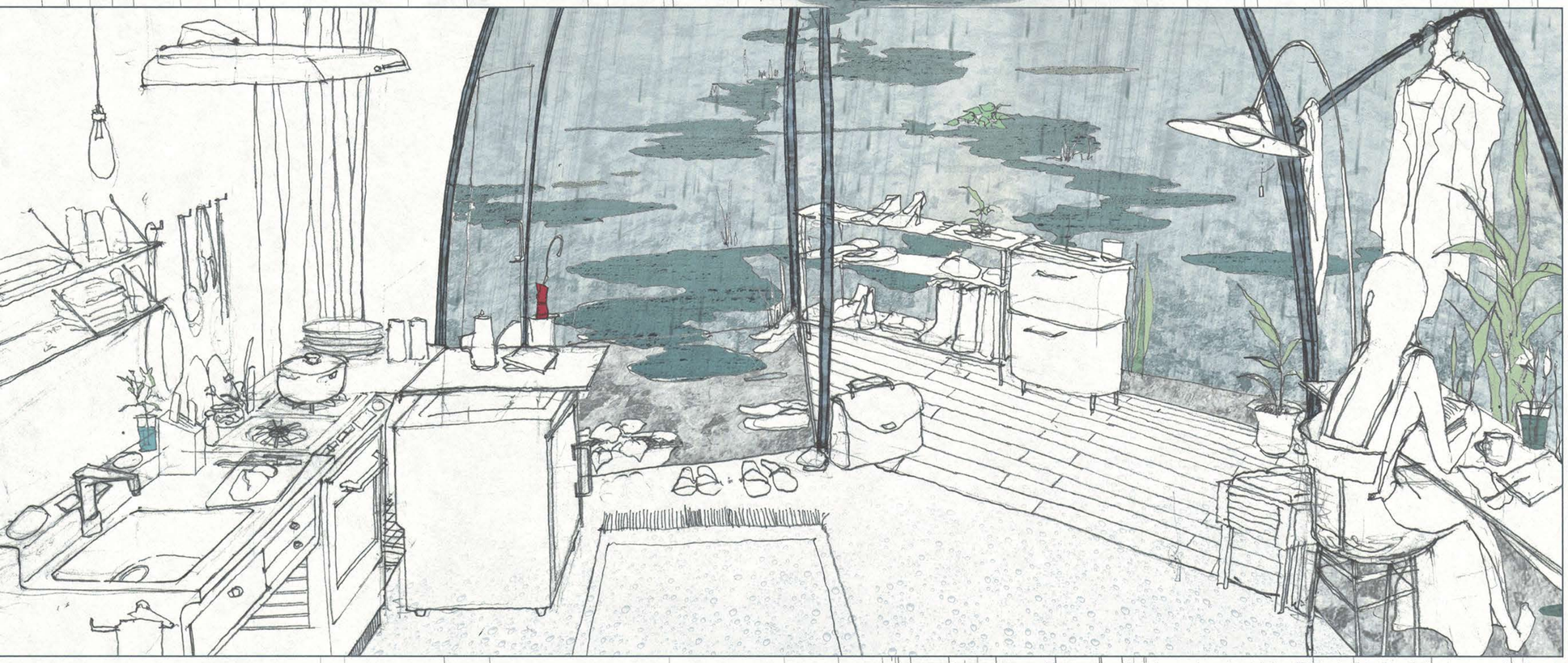
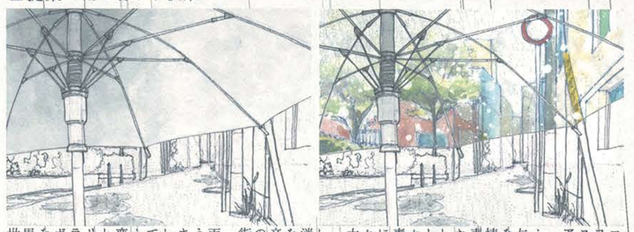
傘の中はつながる

ポツ、ポツン、ポツポツ...
しだいに雨のにおいが部屋に広がり、雨音も激しくなってきた
サッと壁がなくなり、庭の大木に目を向ける
車の交通音を消し去るくらいの激しい雨音だが、耳が慣れたのか遠くの音も聞こえてくる...
晴れた日は、この大きな街でひとりぼっちな気分だが、
雨の日は、この大きな街が私の家みたい... さあ、雨空のもとお風呂に入ろうかな。

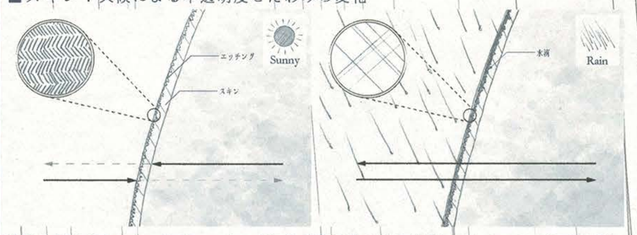


■提案：雨と暮らす快楽



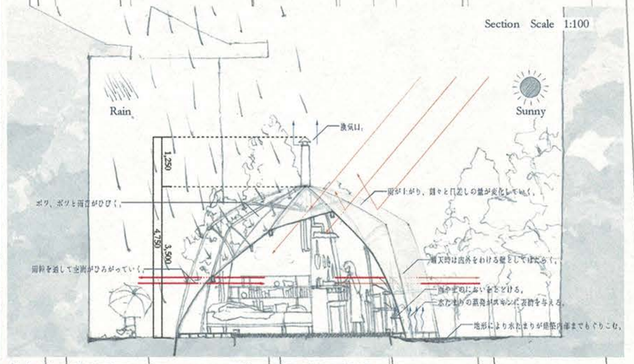
世界をガラリと変えてしまう雨。街の音を消し、木々に青々とした表情を与え、アスファルトはひかり、雨粒は宝石のように世界を輝かせる。雨が与えてくれる恩恵を存分に楽しむ、そして雨が降ることを待ち焦がれてしまうような家の提案。

■スキン：天候による不透明度とたわみの変化



建築を構成するスキンにはエッチングによる半透明の加工が施してある。この加工は雨などによる水滴に濡れた時に、劇的に透明に近づく。その時、建築の内部は外部に拡張されていき、部屋は内と外の境界が曖昧になっていく。一度濡れたスキンは、徐々にグラデーションをもちながら元の不透明な姿に戻る。この時天候によってその変化は異なるため、微妙な天候状態の差を感じることが出来る。

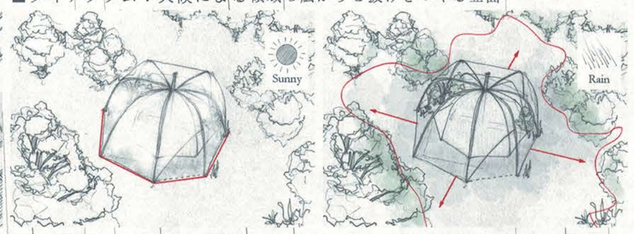
また熱膨張によってスキンのたわみも変化する。晴天時においてはスキンが壁として内部空間に伸縮することで、雨天時においてはスキンをたたく雨音に差が生まれることで、このスキンのたわみを感じることが出来る。



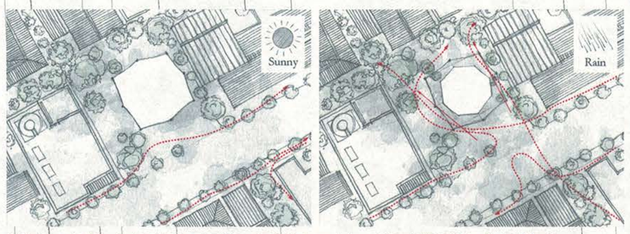
■敷地：覆い隠された空き地や通り道

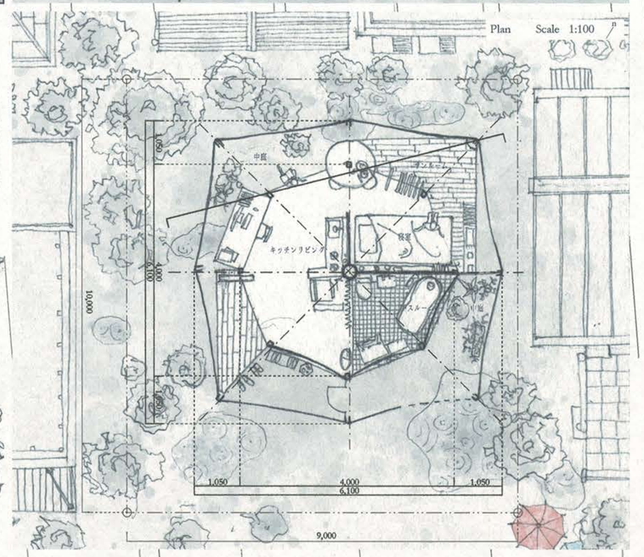
対象とする敷地は都内の大通りに近い住宅街の一画である。この地域は古くからの木造密集地であったが、主要道路が整備されたことによりオフィスビルや大型マンション、駐車場が建設され、建物の間には大小さまざまなスケールを持つ空間や通り道が生まれている。しかし複雑に建築が建ち並ぶこの地域ではそれらの空間や通り道は覆い隠され、住民には利用されていない。

■ダイアグラム：天候による領域の広がりと抜けをつくる立面



閉じた空間として存在した建築内部が、雨天時には外部が部屋の延長のように広がる。



壁として存在した立面が、雨天時には抜けをつくり、街の空間や通り道を現わす。

雨天時というのは外出が難しく、屋内で閉塞感を感じることが多いが、この家では雨天時に外部と視線や音、においを通して接続し、街の雰囲気を味わえるようになる。
また道行く人にとっては、家の立面が減少したことによって、奥に隠れていた街の中に元々存在する空間や通り道を発見する機会を与える。
この家の内外の境界は、住民と他者の視点によって違いを生み出す。お互いの領域を侵食するようなこの見え方の差は、空間利用において新しいアクティビティを生み出す。